

平成 23 年度
草津市教育委員会事務
外部評価委員会 会議録

第 3 回会議
(平成 24 年 8 月 31 日開催)

草津市教育委員会

外部評価委員	委員長 委員 委員	兒玉 典子 久保 明雄 山下 季代子
教育委員	委員長 委員 委員 教育長	小西 明 馬場 輝代 村山 美智子 三木 逸郎
議事参与	教育部長 教育部理事 教育部副部長 教育施設整備室長 教育総務課長 生涯学習課長 スポーツ保健課長 文化財保護課長 草津宿街道交流館兼史跡草津宿本陣館長 図書館副参事	加藤 幹彦 川那邊 正 小寺 繁隆 竹村 徹 山本 美佐子 堀田 智恵子 横田 博紀 谷口 智樹 八杉 淳 北相模 政和
事務局	教育総務課副参事 教育総務課主事	岡田 芳治 山下 友実

開会 午後 2時00分

事務局

ただいまから、平成24年度第3回草津市教育委員会事務外部評価委員会を開会いたします。

本日は、第一部として、まず前回までの会議録について御承認をいただき、その後、前回までの会議において御質問いただきました事項について、事務局のほうから説明させていただきます。その後、教育委員に入っていただきまして、第二部の教育委員との懇談の予定でございます。終了予定時刻につきましては、午後4時ぐらいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、兒玉委員長に司会進行をお願いいたします。

委員長

ありがとうございます。では、これで3回目となりますが、はじめに、第1回目と、それから、第2回目の外部評価委員会の会議録がお手元にあると思いますので、その確認をさせていただきます。

(会議録の確認)

それでは、この1回目と2回目の会議録の確認をさせていただきました。ありがとうございます。

それでは、会議録の承認をいただきましたので、続きまして、前回、前々回で私ども外部委員のほうから質問をいたしまして、回答はまた後ほどというふうに伺っていたそういう件ですね。それについて、事務局のほうから説明がございましたら、よろしくお願ひいたします。スポーツ振興課のほうから御説明されますか。

事務局

もう順番に言わせていただいたらよろしいですか。こちらのほうに確か一覧表になっていると思いますので。

委員長

はい。お手元に一覧表がございますよね。

スポーツ保健課長

すみません。失礼します。スポーツ保健課の横田でございます。

(5) - 4 というところで、これが食に関する指導ということで、児童対象の食育学習というところで、私自身が「簡易給食が幼稚園のほうでなくなつたので代わりにやりました」というように発言したんですけども、委員さんの方から、「昨年もありました」ということで、調べましたところ、すみません、

簡易給食はずうつとありました。記録のほうを調べましたら、10年もとと前からありましたので、以前から簡易給食は小学校の就学入ってすぐの子どもさんが、学校給食になれるまで、簡易給食というのをずうつと草津市では続けておりましたので、その点申しわけありませんでした。ちょっと私が電話のやりとりで聞いておったところで、簡易給食があるからということで、今年からやったと聞き間違えて、その分を報告させていただきましたので、訂正させていただきます。申しわけありませんでした。

委員長

はい。この点は12ページの取組の成果を見ましても、本文には影響しない部分ですので、わかりました。ありがとうございます。

そしたら、これについてはよろしいでしょうか。

それでは、続きまして、生涯学習課のほうの（10）－3というところで、山下さんの御質問に対する答えということで、生涯学習課よろしくお願ひいたします。

生涯学習課長

生涯学習課の堀田です。少年センターの相談件数が減った理由の中で、発達支援センター等に分散されているという部分を御説明させていただいたんすけれども、発達支援センターの来所による相談件数につきましては、平成22年度が599人、平成23年度が650人と増加しておりますし、あと教育研究所にあります「やまびこ相談室」、こちらも不登校が主な相談になるんですけども、こちらの件数につきましても、平成22年度は925件、平成23年度は939件と増加しております。ただ、こういう相談の部分で、それなりに充実したのと、相談場所の認知度の高まったことと、それから、そこまでに至った経過の中に、発達障害であるという原因という部分も、かなり今増えてきているのと、その発達障害という認知度が高まったことによって、医療専門機関への相談というのもかなり増えているので、今まで相談場所は少年センター一つであったものが、そこまでに至る前に、医療部門のほうへの相談も増えてきているのであろうと。もちろん推測でしかないんですけども、そういう分増えてきているので、今までしたら少年センターの「あすくる」というところと、教育研究所の「やまびこ」と二分化されているところがあったんですけども、かなり幾つかに分かれている状態になっていることから、少年センターの相談件数が減っているのではないかと思われました。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。

そうしますとね、これは少年センターの事業としては、評価はりなんですか

れども、全体としては、やはり相談件数が増えてて、それでそれに対する適切な対処も増えているだろうということですね。ですから、相談業務全体としては、むしろプラスの評価をしたほうがいいということでしょうか。

生涯学習課長

はい。

委員長

はい。ということで、ほかに、私、先にしゃべつてしましましたけれども、そういうことでよろしいでしょうか。

久保委員

いえいえ、結構です。

山下委員

はい、おっしゃるように。

委員長

そうしましたら、次に（15）－2で、学校教育課のほうからの御説明をいただきたいというふうに思います。草津教員塾の方よろしくお願ひします。

学校教育課長

29ページ、30ページ、（15）－2、久保委員さんからの草津教員塾について、受講者数の推移についての御質問でしたけれども、対象者は教員で10年未満の者を一応対象としております。その数を今年度と昨年度2つを調べました。平成23年度ですけども、小学校につきましては、教諭の全部の数が321人に対し10名未満の者が122人、およそ38%でございます。中学校は全体教諭が80人に対し10年未満が20人、25%でございます。本年度につきましては、小学校で全体が325人うち10年未満が111人で約34%です。中学校は全体が173人、うち10年未満が45人、約26%でございます。

この取組状況の中で、受講者が28名、30名となっていますのは、内容が実習的なことをするために35名から40名とぐらいに制限をしているので、これだけの数になっているということでございます。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。

久保先生、何かよろしいでしょうか。

久保委員

結構です。

委員長

はい、ありがとうございます。

そうしましたら、続きまして、（18）－1、31ページ、32ページになりますが、学校教育課のほうから御説明をお願いいたします。

学校教育課長

（18）－1、授業研究会の開催の取組状況をどのように図るかということです、これは定例の教育委員会の中で、教育委員さんのはうから、実施した学校ではなく、実際にどのぐらいの先生がやったのか、で表すべきではないかという御指摘をいただきまして、全体の教員を分母にして、その中で実際に授業の質を上げるために研究授業を行った数にしました。それは校内研究会、あるいは校内での学年や学年との研究会、それから、市や県の教育課程の指導訪問のうち、指定授業としてみんなに見てもらって協議をした授業、それから教科等部会別研修、いずれも授業力アップをねらったそういうものにしました。平成23年が69.9%ということでございます。平成23年度が初めてとりましたもので、あらかじめの目標数値というのは決めておりませんでしたので、今回はbという評価にさせていただいております。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。

これについて、御質問はよろしいでしょうか。

それでは、御説明ありがとうございます。

続きまして、（33）－2、50ページからになりますが、（33）－2について、生涯学習課のほうから説明をよろしくお願ひいたします。

生涯学習課長

生涯学習課の堀田が御説明させていただきます。

淡海生涯カレッジの終了生が活動の場を広げるための制度があつて登録をしたというのを御説明させていただいた中で、メリットは何があるかということだったんですけども、滋賀大学さんのほうで、環境教育の充実を推進するために開設されており、環境学習支援師のプログラムをとっていただくことこちらのほうは進めさせていただいている。その一つには、環境学習支援士の受講資格に淡海生涯カレッジを終了した者となっており、その終了された方については、そういうコースがあるという御案内をさせていただきまして、実際にとられた方で、学校とか、市民センターとかで講師をして活躍いただいている方が何人かおられます。ただ、学習支援士をとられても、人前でお話しするのが苦手という方も実際はおられますので、とっていただいた方、全てがそういう活動をしていただいているわけではないんですけども、そういう趣旨の部分はよく理解していただいているので、今後もそういう方が増えるような働きかけをこちらのほうもしていきたいと考えております。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。

なかなかメリットをうたわないと人も増えないし、だけどメリットをうたつたその後をどうするかというのが、また次の問題になってきますので、なかなか難しいところがありますけれども。

はい、それでは、続きまして、最後ですが、(39)-2、58ページから59ページのところの生涯学習課のほうからの御説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

生涯学習課長

生涯学習課の堀田でございます。

これ大変申しわけないんですが、平成22年度、実は調査の例を出させていただいていたんですが、もう一度、今年度企画するのにおいて、団体数を数えさせていただいたところ、同じ団体さんが違う場所で展示をしていただいてたりというのがありましたので、そのために13というところを平成22年度10という形に訂正をさせていただきました。ちょっとこれ、説明の中でその部分が抜けておりましたので、申しわけありませんでした。よろしくお願ひいたします。

委員長

はい、ありがとうございます。

これについては皆さんよろしいでしょうか。

2回にわたっていろいろと質問させていただきまして、お答えも今日また調べていただいて、報告いただきましてありがとうございます。

それでは、この御説明をいただきましたので、第1部の協議内容を終了させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、いったん事務局に進行をお返しいたします。ありがとうございます。

事務局

ありがとうございました。

それでは続きまして、第2の外部評価委員の皆様と、教育委員との懇談へと移らせていただきますが、座席の分離をさせていただきたいと思います。その後、教育委員に入室いただきますので、もうしばらくお時間をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(教育委員 入室)

それでは、これより第2部、外部評価委員と教育委員の懇談を始めさせていただきます。

懇談を始めるに当たりまして、三木一郎教育長が御挨拶申し上げます。

教育長

皆様こんにちは。本日はありがとうございます。外部評価委員の皆様と教育委員の懇談を始めるに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

外部評価委員におかれましては、お忙しい中、また、大変お暑い中、8月6日、7日と2回にわたり熱心な御議論をいただきましたこと、厚く御礼を申し上げます。

点検評価にかかる外部委員会の会議録を拝見いたしましたが、委員の皆様からいただいた御意見や、励ましのお言葉を、これからの中の教育行政を進めていく上で、大いに参考にしてまいりたいと思います。御承知のように、草津市教育委員会が開かれた行動する教育委員会をモットーに、教育委員みずからが現場に出向き、直接教育の現状をつかむように努めているところでございます。本日はそうした流れの中で、外部評価委員の皆様と、教育委員の懇談の場を設けさせていただいたところでございます。

今回いただいた貴重な御意見を糧に、これから草津の教育の向上につなげてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上、まことに簡単でございますが、第3回目の外部評価委員会に当たっての御挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願ひいたします。

事務局

それでは、兒玉委員長、会議の進行をよろしくお願ひいたします。

委員長

はい。私兒玉でございます。進行を務めさせていただきます。座ったままで失礼いたします。

本日の懇談のテーマというのが、「教育委員会事務の点検・評価（平成23年度）について」ということになっております。私たちの外部評価委員は、今年度の外部評価をさせていただく中で、いろいろな草津市の教育委員会に対して、期待することということを述べさせていただきました。それが、これから草津の教育行政のお役に立てればというふうに思っております。

はじめに、私たちの外部評価委員の自己紹介も兼ねて、今回の外部評価を行っての感想というものを一緒に述べさせていただきたいと思います。はじめに私のほうから述べさせていただきます。

今回は非常に貴重な機会を与えてくれまして、まず、三木教育長に御礼申し上げます。ありがとうございます。私は、草津市の教育行政については、ほとんど存じておりませんでしたけれども、今回の機会を与えていただきまして、

いろいろな資料を見せていただきまして、よく理解することができました。特に印象に残ったのは、草津市は教育予算が非常に充実しているなど、それで先駆的な取組もされていると。ですから、細部にまで見てみると、工夫がされているということを感じました。こういうような教育行政の中で問題が全くなくなるということはございませんので、それはそれとして、草津に住んでおられる市民の方にとっては、非常に配慮された取組をなされているなというふうに思いました。そういうものが多く認められるなというのが、私の全体的な感想でございます。

以上でございます。

それでは、次に久保委員のほうから。

久保委員

座ったままで失礼します。

元中学校校長ということで、今回、外部評価委員を担当させてもらうことになりました久保でございます。今、委員長の兒玉先生もおっしゃったんですが、私も今回こういう仕事をさせていただいて、もともと中学校現場に勤務をしていたとはいいますものの、草津は全く初めてですので、みずから草津市に住んでいながら、今回いろいろ教育施策等よく勉強させてもらえたというふうなことを一番に感想として持っております。どれだけ外部評価委員としての役割を果たせたかなという不安はありますので、御迷惑かけただけかもというような思いが強いんですが、やらせてもらった感想というか、印象として、これも兒玉先生とよく似ているんですが、すごく教育に予算をつけておられて、さまざまな事業を展開されているということに、本当に感心をいたしました。私が印象深かったのは、特に学力面で、確かな学力を育成するという意味合いで、子どもたちの意欲を高めることも工夫しながら、計算検定や漢字検定、英語検定などに小・中学校でそれぞれ取り組まれていることとか、それから、予算の面ですごいのは、もちろんハード部分もあるんですが、私がおりました大津と比べても、人員の配置という点で、市費の教員をたくさん現場につけられて、それが教育の充実につながっていくというふうなことに力を入れておられる様子を、ものすごく感心いたしました。よそから比べたら、随分うらやましいことだろうなというふうに思いながら仕事をさせていただきました。若い教員も多くて、まだまだこれから活気をもって発展していく市だろうと思いますので、そういう意味では、教育にそこを充実していただくと、市民としてもありがとうございますというふうな期待を持っております。

以上でございます。

委員長

はい、ありがとうございました。

それでは、山下さんお願いいいたします。

山下委員

草津市PTA連絡協議会から来ました山下といいます。単位PTAのほうでは、矢倉小学校のPTA会長のほうをさせていただいております。PTA会長をするに当たって、草津市のPTAもやることになっているんですけども、とても学校と密接な、本当に協力しあう関係の中でPTAというのが活動しているので、こちらのほうで点検・評価の報告書というのをいただいたときに、内容を読ませていただいて、ああわかる、わかると思いながら読ませていただきました。漢字検定はじめ、学校にもクーラーをつけていただいたりだと、本当にとても草津市の教育は子どもたち充実してさせていただいているなというふうに、日々感じさせていただいております。もちろん、電子黒板の設置にしてもそうですし、もう本当に先生方も熱心に勉強されておられるなというふうに、毎日のように感じます。単位PTAの自分のところの学校の意見が主になってしまいがちなんですけども、学校で会議なんかがあった時には、やはり先生方も本当に遅くまで残っておられて、もうずっと子どもたちのために、教育に取り組まれておられる姿を見るのが本当に多いので、とても熱心にやっておられるんだなというのを感じていたんで、今回この評価報告書を見せていただいたとき、さらにこんなふうに教育委員会の方が活動されているんだなということを改めてありがたい限りだなというふうに、一保護者としても思わせていただいております。このままずっとこの調子で続けていただけたら本当にありがたいなというふうに思っていますので、またよろしくお願ひします。

委員長

はい、ありがとうございました。

それでは、私どもの自己紹介が終わりましたので、続きまして、教育委員の皆様の自己紹介をかねまして、私どもの第1回目、第2回目の外部評価委員会の会議録も既に目を通してくださいましたと思いますので、その感想も交えながら、自己紹介をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

まず、小西先生。

小西教育委員長

小西と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。座らせていただきます。委員の皆様方から、今、数々のお褒めの言葉をいただきまして、本当にありがとうございます。委員の皆様方の今回の熱心な審議に厚く御礼を申し上げます。

私、民間企業に勤めておりまして、会社をやめた後、世話になった地域に恩返しのつもりで、まず町内の活動から始めまして、町内会長をやりまして、町内会長をやると町内代表で学区に出て行かないかんということで学区へ入って

きまして、学区の中でいろいろ役をもらってやっているうちに、おまえに任すから事務局長をやれと言われまして、学区の仕事を全部預かりまして、あれこれやっているうちに、地域のコミュニティ、その中にある地域の教育力ということに非常に关心をもちまして、幾つかの役を経て今教育委員をさせていただいて3年になります。どうぞよろしくお願ひします。

今、委員長からお話ありましたように、外部評価委員会の2回の会議録を読ませていただきました。非常に厚い記録になっておりますので、読むのに難儀するぐらいでございました。児玉委員長が、第2回目の冒頭でここに書いておられたんですが、「委員からの意見は、草津の教育行政に対する批判ではなく、もっといいものになってほしいという願いあります。」と、こうおっしゃつていただいております。とてもありがとうございました。

教育学の専門家であられる児玉委員長、それから、子ども教育に長年携わってこられました久保委員、そして今、現役の保護者で、PTAの会長や学校図書館でいろいろ活動をしていただいている山下委員、学校現場の空気を非常に肌で感じてよく知っている方も加わっていただいて、それぞれの御立場から、この中に39の施策が点検・評価報告書にございます。これ26の評価枠に分けて書いてあるんですけど、逐一率直で適切な御意見をいただいて、教育委員も事務局も、その全てを心から素直に受けとめさせていただいて、よりよい草津の教育をめざして励みたいと思っておりますので、本当にありがとうございました。

その中で、今、会議録等から思うことというお話がございましたので、心に残りました3つのことをちょっとメモしてまいりましたので、しゃべらせていただきます。

1つ目、質的評価の問題についてでございます。第1回目で、児玉委員長が、「事業をやっていくとき、量的な拡大と、質的な進化の面がある。今後は質的評価をどれだけピックアップするかを考えいかなければならない」と、こういう御意見がございました。御指摘のとおりであると思います。事柄にもよると思いますが、量より質という言葉もございます。質の追求とともに、その評価を怠ってはならないと思っております。

また、その後に委員長は、「指標をいきなりつくれと言っても難しいので、何年か積み重ねながら少しづつ変えていくという方向で」とも示唆をしていただいております。私ども教育委員と事務局が知恵を出し合って、これからそれに向かって取り組んでいきたいと思います。

また、今後の課題について、この点検・評価報告書には、それぞれのシートに課題欄を設けておるんですが、前年と同じ内容で、何々が必要である、何々の必要がある等繰り返していると、その事を指摘されました。私も、児玉委員

長と同じ問題につきまして、7月の定例会で発言させていただいて、課題、必要性については、毎年繰り返すことなく、担当者がかわっても、これを引き継いで具体的な施策や、事業の形にして取り組んで、翌年度、あるいは翌々年度に、どのような対応をしたか、その結果はどうだったか、必ず点検・評価報告書に記載して、点検評価が活かされたことを確認し、記録として残すように求めました。御指摘の点を改善するよう、もう一度事務局のみんなと考えていきたいと思います。

それから、2つ目です。久保委員が教育委員会の果たすべき役割の重要性から、教育委員会協議会、教員と町行政職員の共同、あるいは教育委員と管理職の議論の機会を持つことの大切さを指摘されまして、制約のある中でも、これらの充実をと御教示いただきました。昨今は特に教育委員会、それから、教育委員のあり方について、厳しい目が向けられております。特に、大きな問題が起こったときの対応や、その判断について、大きな批判があります。これを機会として、事務局も教育委員も協議、協働、議論の場や、機会の充実と、関係者への日ごろの意思疎通、情報交換を密にして、これまでのやり方の流れを見直して、より信頼される機関になれるように努めたいと思います。

それから、3つ目です。PTA会長や、学校図書館でのボランティアの活動を通じて、また保護者として、今の生きた教育現場に接しておられる山下委員が、「これだけ教育に熱心に取り組んでいただき、本当にうちの子どもが草津でよかったです、このまま頑張ってくださいというのが私の意見です」という趣旨のことを言っていただいておりますのを知りまして、教育委員としてとても感激をいたしました。ありがとうございました。

実は私、事務局の各担当部門が作成しました、この平成23年度の点検・評価報告書を見て、これまでとは違いまして非常にうれしく感じておりました。というのは、先の平成21年度の点検評価では、Aの評価がわずか3つでございました。残りは全部Bと、この年、私は新米教育委員で、怖いもの知らずでございましたので、「何でB、良くもなく、悪くもなし、普通と評価しておけばどこからつかれても無難であるとの考え方があるのではないか」と、こう偉そうなことを申し上げまして、先輩委員や事務局幹部からの心証を悪くしたという感じを持ちました。しかし、平成22年度の評価ではAが9つに増えました。Bは17に減っております。そして、今回の平成23年度の評価では2.5以上、これがAの評価なんですが20個になりました。大幅増加をしております。Bの評価はわずか6個になりました。私は教育委員会の定例会の席上で、このことについて、「担当各課がしっかりとやったという自信の表れである。評価してこの自信を糧にして次へとつないでいただきたい。」と、こういうふうに申しました。この評価も、もっとわかりやすく申し上げますと、私が民間会

社の役員の現役であったならば、そしてこれがその組織内のことであったなら、全員に金一封を出すか、ボーナスに別封をつけるか、それぐらい高い評価をしております。そこに現在の保護者であります山下委員から、身に余る、先ほどのお言葉をいただき、この上ない喜びであります。

三木教育長から、機会をとらえて、山下委員のこの言葉を事務局や学校、その他の教育施設に伝えていただいて、現場を守る人たちの励みにしてもらったらというふうに思います。三木教育長よろしくお願ひします。

以上でございます。

委員長

はい、ありがとうございました。

次に、そしたら馬場委員、お願ひいたします。

馬場教育委員

教育委員をしまして2年目になります。馬場と申します。

去年もひょっとしたら申し上げたかわからんんですが、評価というのは、最終的には、草津の子どもたちに活きて働くものでなくてはならないというふうに思っています。子どもたちに返ってこそその評価というふうに考えていますので、そのためには、子どもたちを育てるに当たって、現場の先生方が何を困っているのか、それをまた遂行するに当たって、事務局がどんなことで苦労しているのかというところ辺が、お互い共有できていないと、単なる形だけの評価になってしまいますので、そこら辺については、まだまだこれから考えていかなければならないというふうに私は思っています。その点では、こういう形を経ながら、少しずつ考えを深めていくのが大事かなというふうに思っています。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございました。

次に、村山委員お願ひします。

村山教育委員

教育委員になって1年目の村山と申します。息子が1人おりまして、草津第二小学校で6年間お世話になり、今、草津中で非常に楽しく過ごしているようです。

今回、1年目ですので、こういったものに触れるのは、私は初めてなんすけれども、馬場先生がおっしゃったの全く同じ思い、印象を受けまして、ハードの充実とか、人員の充実ということをいろいろおっしゃっていただいて、それはとてもすごく良いことだと思いますし、それを活かしていくかなければいけないと思うんですけども。あくまでもそれをきちんと教育そのものに活かし

てこそ、その目的が果たせるということなので、それ自体の目的ではなく、あくまでも手段であって、それによってどれだけ子どもたちに成果が出たかということをきちんと評価していってこそ意味があるというふうに思いますので、そのところを私たちもしっかりと見ていかなければいけないなというふうに思いました。

また、ハードとか、人員とかを充実させるからこそ、そこに頼らない考える授業というのを一保護者としても、すごく大切にしていきたいと思いますし、そういったところを充実させていければなというふうに思っています。

また、草津という土地柄で、特に例えば私の住んでいる駅周辺ですと、私学ですか、草津外に出て行かれるお子さんも周りにはたくさんいらっしゃる中で、なぜ草津なのかという、その地元ならではの活かせることというのを、これから強めていければなというふうに思っています。

委員長 はい、ありがとうございました。

そしたら、自己紹介の最後に三木教育長のほうからお願ひいたします。

教育長 私も4年目ということで、一番古いんですけども、挨拶でも書かせていただきましたけれども、2日にわたり熱心な議論をいただき、80ページに及ぶ会議録、議論をしていただいたわけですけれども、改めて丁寧なことで本当にありがとうございます。

先ほども、数量的な把握というのも必要だけども、実は質的な自己評価といいますか、それをもとにした評価というのがこれから求められるということを委員長からお話しいただきましたけども、そこが非常に大切な視点だというふうに思っております。それから、このことが、学校教育の分野はもちろん大切でありますけども、生涯学習であったり、文化・スポーツを含めてですね、教育委員会の取り扱っている事業がたくさんございますので、その辺も含めて、草津の教育がどのようになったのかということも非常に大切な視点だろうし、その辺も含めて御議論いただいたというふうに思っております。

先ほども幾つかのところではですね、過分な評価をいただきました。これにつきましては、励ましととらえてですね、教育の現場で働く教員、行政職員が今後ともこれを誇りにして、確信として取り組んでいかなければならぬというふうに思いましたので、本当にありがとうございました。

委員長 はい、ありがとうございました。

自己紹介と感想等を伺いましたので、これから、しばらくは自由な意見交換というふうにさせていただきたいと思います。

もうどなたかとか言って指名することではございませんので、何か御意見がございましたら、自由に御発言いただきたいと思いますけれども。切り出しにくいと思います。私のほうから、先にお話をさせていただきますけれども、教育基本計画の第2期を今度どういうふうな計画にするかというのが、国のほうで今つくられておりますよね。それに沿って、草津のほうも、草津市の教育振興基本計画を立てられると思うんです。そういうときに、どうしても評価、評価、評価ということで、それが毎年重なってきます。最初のスタートのときは、じゃあよしやろうかと思って皆さん熱心にやられるんですけども、そのうちに評価疲れみたいなのがどうしても出てくるんですよね。ですから、事業を拡大するというようなことは、最初の段階ではできるんですけども、拡大した事業をどうやって維持していくのかとか、後はその事業をどうやって整理して統合していくのかというようなことが、次に出てくるんだと思います。多分、第1期はこのままで多分いかれるとは思うんですけど、第2期に入りましたときには、そういうようなことも考えて、事業の見直しみたいなことも必要になってくるかなというようなことを思いました。

それと、先ほど言いましたような評価疲れを起こさないような工夫を、どういうふうに教育委員会のほうでお考えになるのかなど。それが私の気になったところです。

どうでしょう、何か自由な御発言で構わないということですので、何か。

久保委員

今、先生が言われているということは、会議録の中でも言っておられますよね。確かに事業の見直しと言いますかね、評価疲れと言いますか、そういうところでやっていけば、どういうふうにこれはBでずっと最後までいった場合よってという話になりますよね。それから、評価のための評価とか、以前、これに入る前に、目標を低くしといたら、全部Aになるやないかという話なんかもあつたり、そういう意味で評価のためにどうするかというようなことではなくて、内容を本当に子どもたちのためであつたり、市民のためで、どういうふうに詰めていくのかというとこの辺ですね。

それともう一つは、言われるように、見直しがなかなか大変なんですね。どちらかと言いますと、縦割りであつたり、前例式であつたり、横並びであつたりというようなね、なかなか仕事のスタイルが変えられないところで選択の集中とよく言われているんですけども、どれをやめて、どっちにシフトするかと。民間的な発想で言えば、どちらかというと、それはすぐ乗り換えてね、こちらとの関係でやらないと、それはもう乗り遅れてしまうということで、すぐ方向転換できるんですけども、市民も含めて多くの方がいる中で、昨日まではこつちにしてたけど明日からこっちやと、大阪市の場合もそういうことも含めてあ

るかもわかりませんけど、全体的な合意を、どこでどうとていくのかというところ辺では、うまく説明責任と言いますか、開かれた行動する教育委員会としては、できるだけ多くの方に理解をいただきながら、やっぱりこの方向でいくべきだというところ辺をことで決めるのかということが、これからますます求められてくるんじゃないかなというようなこともあります。

委員長

ありがとうございます。私はスターとして、切り出しをやりましたので、どうぞ。

小西教育委員長

それでは引き続いて。先ほど、私は地域活動に参加したと、一つは大阪に勤めてましたので、ほとんど昼間は地域におりませんでした。サッカーを子どもがやっておりましたけども、周りの旦那さん方は、日曜日になると車に子どもとボール積んで、道具積んでグラウンドへ行かはるんやけど、私は1回もやらなかった。家内に1日ぐらい日曜日は家にいて手伝ってくれと言われたぐらいです。そういうこともありますて、地域活動に出て、今ちょっとでも恩返しをしようと。

もう一つは、自分の生きがいというか、やりがいをどこかで見つけないかんなど。もう目的が無くなりましたので、そこで目的を見つけようということで、地域活動に出ましてね、そこでやっぱり感じましたことは、さっき言いましたように、地域のコミュニティのあり方と、地域の教育力の大切さ、それを痛切に感じました。その後、私、滋賀県の社会教育委員になりまして、どこでも顔を出しておるんですけど。児玉委員長も御存じかもしれませんけども、滋賀大学生涯学習教育研究センターの梅田修教授がおいでになりました、あの先生の指導で、滋賀県の社会教育委員会の専門委員5人が、2年間かけて滋賀県の公民館の実態調査をやりました。そこで得たものをもとにして、これから公民館のあり方という提言書を出したんです。非常に楽しく、いろいろ勉強できて、先生から教えられてしてきたんですが、いまだもってその提言書がどこで生きたのかなというのがわかりません。公民館に全部配られました。それから、もちろん担当各市町村の課にも送るという話になっていましたけど、どこからもその反応がない。まことに残念なんです。先ほどちょっとちらちら話が出てましたけど、この評価報告書もそういうことにならないように。僕、先ほど定例会で発言してお願いしたと言いましたけども、問題があったら、それについては担当が変わっても、これを引き継いで、その課題についての対応策をとると、失敗でもいいから結果をどうだったかと、次の年の評価報告書に書いておくと。さらに、さらにということで、いずれどこかでゴールを見つけて、完成させるようになったらなど、今、社会教育委員をしたときの思いから、ちょっと関係

のことを申し上げました。

それからもう一つは、僕が思っていますのは、今の私の経緯から考えて、地域活動、地域コミュニティと、学校教育と、それから、もう一つ社会教育、これそれぞれの分野があって、それにみんな一生懸命やっておられるんですけども、これがやっぱりどこかで連携して、どこかで一体になってやらないと、満点をとっても300点、これを500点になるようにするには、やっぱり一体化が必要じゃないかなと思います。ただ、地域の現場におきましたときに、学校も時間割りがあって忙しい、地域は地域の行事の段取りがある、いろいろのことがあって、建前でいろんなことをやるんだけども、なかなか本当にかみ合ってない、本当は腹の中、先生どうですかと聞いたら、忙しいのにねというふうなところがあるんです。本当はそういう思いも片方で持ちながら、一緒に地域と学校がやっておられるところもあるんで、なかなか難しいところもあるんですけど、できたら何かの形で一体化できるようにしていかないと、学校教育も本当の成果が出てこないんじゃないかなという思いを今でも持っています。教育委員会だけが一生懸命学校教育をやる、もちろん社会教育担当する部分もあるんですけども、別々に仕事をしていて、なかなか、せっかくこの建物の中の同じ部屋にいるのに、ここでも分かれてて、地域に行ったらもう完全に割れているみたいなところがたくさんあるんで、やっぱりそのところをもうちょっと融合させるような努力が必要かなと思います。

よくしゃべって申しわけないんですけど、今、幸いなことに、市長部局に、まちづくり協議会をつくるための部門ができました。この間も私、公民館に行って所長さんと話してたんですけども、あらゆる団体がある、社協もあるし、自治連もあるし、青少年育成会もあるし、40の団体があるんです。みんな立派な方が指導しておられてやっているんだけど、ばらばらで、場合によっては別々に市役所の担当課から補助金をもらって同じことをやっている。私のいる学区なんか、子どものためのキャンプが2種類ある。指導者は両方から出たり入ったりしとる。そういう割れているところがあるんで、何かどこかで一体になるようにと思って、このまちづくり協議会ができたので、ここで総括してこれからやっていければ、非常によくなっていくんじゃないかなという思いを持っています。役所も、理由があって教育委員会と市長部局が分かれてますけども、まちづくり協働課については、教育委員会と一体になる、接触できる接点をどこかで求めんといかんなという気が非常に強くしております。それができれば、もっとよくなるように思うんですけど、山下委員なんか、現場でいろいろやっておられるから。

山下委員

まちづくりももう発足しているので、もうそちらの会議もずっと出でます

けども、PTAという立場で言うと、学校サイドと地域サイドとの間に立っている部分があるんですね。なので、地域の方とお話をしながら、学校とも話をしながら、やはり学校さんの意見もあれば、地域さんの意見もあるので、その辺をやっぱりPTAとしては、うまく取り持てるような形をつくっていきたいなど、私は個人的に思っているんです。一体感も、やっぱり学校と地域一体化させようと思ったら、PTAがその辺をある程度担っていきながら、一体化を考えていったらしいかなというふうに思うんです。というのも、学校側というのは、先生方はね、その土地に、その学区に住まれているわけではないので、どうしてもその学区のことの事情とかがわからない先生方がたくさんおられて、その学区の方からしたら、よそもんやという、そういうちょっと冷たい部分もあるんですよ。地域の方からしてみれば、学校の先生方はよそもんなんだという、そういう部分もあるので、そこをやっぱり間に立てるのはPTAじゃないかなというふうに、最近ね、ようやく思うようになったんです。

私は矢倉なんんですけど、矢倉がね、幸い学校側も大分協力というか、もう本当に一体化に向けてやりたいというお気持ちを持っておられると思うので、去年なんですけども、公開参観というのをされて、地域の方が授業ではないんですけど、昔遊びみたいなものとか、矢倉の歴史とかを子どもたちに教えるという場を学校の中でつくって、授業を展開されたんです。そうすると、地域の方がぐっと学校に入って来られて、本当に学校長に対してはね、勇気のある判断だなと思ったんです。本当に地域の方がごおっと入って来られるので、正直、大丈夫なのかなというふうにも思ったんですけど、やはりそこは信頼関係もぐっと深まりましたし、そうやって地域の方とつながりながら授業をされているお姿を見ると、先生方も一緒になってね、地域の方と一緒にやっておられたので、とても見てても一体感というのをすごく感じさせていただきました。

矢倉についてだけなんですけど、とても温かい感じで地域の方が見守っていただいているんだなというふうに、保護者はじめ子どもたちも感じただろうなというふうに思いますし、学校の先生方も、そうやって地域を受け入れてくださったというのは、とても本當によかったなというふうに思っているので、今後そういう感じでどんどん学校と地域がうまくつながっていくんじゃないかなというふうに思っています。

委員長

どうですか、PTAの、今お話を出ましたけれども。

村山教育委員

そうですね、私も息子が1人で、第二小のことしかもうほとんどわからないんですけども、やっぱり地域の方、すごく入ってくださっているというのは、すごく感じました。感じた一方で、私の印象ですけれども、自然にはなかなか

それはできないことで、地域の皆様もすごく努力してくださっているんですね。それが、一定の方に偏ってしまいがちなところももしかしてあるのかなと。というのも、私も何か行事がある度に、ちょこちょこ顔を出させてもらってたんですけど、割と同じ方によく出会うというか、それはそれでいいことでもあると思いますし、子どもたちもお互い顔も覚えてもらったり、自分たちも覚えたりというね。ただ、そういう負担になってしまわないといいなという心配も一方でちょっとあるということ。そこまでだと自分はできないというふうに、それによって、ちょっと活動から引いてしまう人もいると思うんです。みんなが少しずつできると、これぐらいだったら自分でも参加できると思う方もやっぱり中にはいらっしゃると思うので、そんなにショッちゅう、ショッちゅうはできないからもう私はやらないという人ももしかして出てきてしまうかもしれないでの、そういったその辺が課題なのかなというふうに、まだ教育委員とかに入る前から、そういう印象はちょっとはあったので、それは本当に一保護者としての印象でしたけれども、実際のところはどうなのかなというのは、まだちょっとわからないんですけど。

ただ、やっぱり子どもたちもすごく自然に接していて、特に私のいる学区というのは、出入りがすごく多くて、もともと地元という子どもさんもいらっしゃいますけど、やっぱりよそから入って来た、マンション住まいでの、余り周りの地域の人たちと接触がないというのが、私のところも実際そうなんですけども、家の中で、いろんな行事ですか、あとは授業なんかでも、週1回のクラブでも、毎週ニュースポーツとか教えに来てくださっている方がいらっしゃったり、そういうので本当に地域の方と、自然にいつの間にか触れ合っているという感じで、お互いに子どもたちもそういうのを通して地域の方と触れ合えるというのが、すごくいいことだし、ありがたいことだなというふうに日々思っていました。

委員長

今聞いててちょっと思ったんですけど、組織を最初に立ち上げていくということと、その立ち上げた組織をずっと維持するために、新旧交代をしながら、後継者を養成しながら、この組織を維持して、また広げていくという、これは2つあるんですよね。だから、設立当初のときには、大抵の方が、やっぱりすごく努力をされて、それでいろんなことをお考えになってやられるんだけれども、それを立ち上げた世代の方が、だんだんそれで負担を感じますよね。そして、自分たちの後を支えてくれる人が少なくなつたときに、この組織のあり方が非常に負担になつくるんですよね。そういう特にいろんな活動をされるときの難しさというのはそこにあるんだというふうに思いますけれども。

村山教育委員	お互いにやっぱりメリットというか、学校でいったら特に子どもがメリットをいただいているというふうには感じるんですけど、ぜひ何とか続けていけたらなというふうに感じます。
委員長	ただね、過度の負担感を持たないで支えていけるような組織というのはね、つらなくちゃいけなんんですけど、すごく難しいですよね、そのところがね。どうしても特定に方に偏ってね。
山下委員	すみません、全然話変わってしまって申し訳ないんですけど、以前というか、評価委員会があったときに、久保委員のほうから、確か小学校と中学校の先生方のというお話をね、確かあったと思うんです。そういうのはどうなんですかね。
委員長	小・中の連携の話ですね。
山下委員	小中学校で先生方の連携がもうちょっとあったほうがというお話をね、私はあれ本当にうなずく部分だなと思っていたので。やっぱり学校の先生方って、その世界しかない部分があると思うんですよ。どこかに相談するにしても、先生方というのは、そこしかないという、そういうのではなくて、やっぱりいろんな方の意見を聞きながら、先生自体がスキルアップしていけるような感じになつたらいいかなというふうに、久保委員の話を聞いていたときにすごく思ったので。小学校と中学校の先生方の、そういう交流というか研修会ですよね、そういうのがもっとあつたらいいかなというふうに思ったんです。
久保委員	今の話のことに関連して、どうなんですかね。例えば事業として、草津市の教育委員会がいろいろ小・中をつなぐような加配やとか、支援やとか配置をされて工夫をされていると思うんですが、それはものすごく大事なことで、そのことがある意味いいきっかけになるんですけども、最終的にはやっぱり学校がそれぞれどう取り組むかによって、子どものプラスの成長につながっていくわけですから、そこをどう組み立てるかみたいなことやと思うんですけど。今、山下委員さんが言われた、そんな意味のことを前発言してたのはね、結局、小学校から中学校へ子どもが進んでいくときの学校の教師のほうのシステムの違いというのが、やっぱりたくさんあるわけですが、それはそれぞれの発達段階に応じた効果的なシステムとして、長年きている分というのは、尊重せんならんことやと思うんですが、小学校の良さを中学校が取り入れてとか、あるいは

逆に中学校の良さを小学校が取り入れてみたいなことが、もっともっと活発にならないと、そのすき間を埋めるというのはなかなか難しいなというふうに思ったんです。

例えば、荒れている学校の子どもが小学校から中学校へ行くときに、小学校の先生が、じゃあこの子と一緒に自分も中学校で教師の現場に立ってみようという、とても中学校じや荒れて大変やから、もうそれは御免だというふうに、もし思うんだったら、本当の意味の連携はできないの違いますか。反対に、中学校の教師が、ものすごいふだん乱暴な授業やらせていて、中学校の先生が物すごいきめ細かく学級経営もされて、一人ひとりを大事にしてやられているその対応をもっと直に学ぶような姿勢を持たないとあかんのではないですみたいなことを言っていたことがあるんですけど。そういう何かきっかけに、教員の交流とか、何かそういうことがなるといいのと違うかなというようなことをかねがね思ってましたし、そんなことを言うたんです。

それと、さっきの話に戻ってちょっとと思うところがあるんですが、学校と地域の連携の橋渡し役というのを、やっぱり P T A の活動というか、役員さんに求めたい部分が、自分が学校にいましたので強かったなというふうに思うんですけど、その中のつながりとか活動、やっぱり保護者、P T A の方だけやなくて、それに関連して地域の人が応援してというような形の行事とか、事業とかを取り組むことで、大きな力につながりになっていけるなというふうに思います。学校側が、個々の先生がそういうことに対して、どれだけオープンな気持ちで受けとめて応えていけるかみたいなところがやっぱり要になる部分やなというふうに思いますけどね。何かそういうふうなことができるといいなというふうに思いますし、草津が地域協働合校として、もう随分早くからそういう取組をされたというのは、すばらしいなというふうに思って見ていましたが、そういうことが何か人のつながりのきっかけになるようとになればいいのではないかなというふうなことを思っています。

教育長

地域協働合校というのはね、そういう意味では、子どもの学びということで、例えば、おじいさん、おばあさんが昔の遊びを子どもたちに教えるとか、自分たちの経験を子どもたちに教えると、そういう意味では、非常に私は大きな成果を出してきたと思うんやけど、それが何年か超えてきますと、地域のいろんな行事に子どもたちが来なさいと、学校も来てほしいということで、負担感がだんだん出てくるような面もあると。そういう意味で、先生が言われたように、個々の教員がどう受けとめるのかというところが非常に大事なんだけども、だんだんそのスケジュール化、行事化していくと、数ばっかり増えていく、先生が言いはったように、組織をつくっても、次にそれをどう維持していくのかと

いうとこの辺で、最初につくった内容が少しずつ負担感になっていく面もあるわけですね。学校が地域によって育てられるというか、そういう面というのは非常に大事だし、今もそういうことが求められはするんですけども、なかなかそういう意味では、過度の負担感と言いますかね、そういうものが出てくると。村山さんとこのように、ほとんどがマンションの人たちで、新しい住民方がおられて、地域の人は少し、だんだん高齢化をしていくという中で、昔と同じ行事をしようとしても、なかなか集まって来ないというところも中にも出てくる。だから、それぞれの地域に合った形で、協働合校の理念と言いますか、そういうものをどう生かしていくのかということもね、これからは必要なんではないかなというふうに思っているところで、そういう整理もしていきながら、新しい形と言いますか、今、まちづくりという話もありますけど、どういう形で子どもたちを入れて、学校の先生方も入ってやっていくかというところですね。先生方もだんだん昔つくったときから層、年代が変わってくるんですよね。そうすると、地域協働合校の趣旨、理念が薄れて、日曜の度に行かなあかんのかと、学校行事もあるのにというような話になって、なかなかうまくいかないと。いろんな組織で、地域でも、学校でも、何々があるということで、日程的にも相当過密になってきていると、それぞれの組織はそれぞれ立派にしたいと思うから、整理もこれからしていく必要があるんじゃないかなという、ちょっとそういうことも思ってますけどね。

委員長

ありがとうございます。

馬場委員は何か、さっきからいろんな皆さんのお話を聞かれて何か御意見がありますか。

馬場教育委員

ちょっと話が変わるかわからないですが、点検及び評価ということが今日の議題ですので、これを作らはったときに、本当に細やかに、あらゆる面にわたって項目をつくり、そしてまた点検をしていただいた。本当に細かく丁寧に評価していただいたんですけど、すっとするか言うたら、何かかゆいところに手が届かないような部分をやっぱり私は持っているんです。それはどういうふうにしていったらいいのかなというふうに考えたら、やっぱりその年にある課題というものが次の年に、この点検・評価の項目として表れてこなくてはならないし、確実同じものがずっと続くと、それはもうほんまに形骸化するだけなので、そのためには、やっぱり現場を知って、また事務局の中身を知ってという形が一番大事やと思うので、さっき久保先生が言わはったみたいに、すき間がある、そのすき間をどれだけみんなが感じるかというところ辺で、次に力をつけていく、そこのところが一番大事かなというふうに私は思っています。

時を追っていくつも新しい課題が出てくるんですよね。だからどれだけ整理をしていくかというとこやと思うんですけど。さっきその小・中連携の話のときにね、昔は中学校ぐらいしかそういう暴力の問題とかが出てなかつたのが、だんだん最近は低年齢化してきているということもあって、そういう意味で小・中連携というのは、いい意味での小・中連携もありますけど、そういう問題についても、きちっととらまえていく必要があるということを考えています。草津では、今もう中学校単位という形ではなくって、中学校だけであったのを、中学校区で小学校、幼稚園とか、そういうとこも含めて、いろんな課題についてどう共有していくのかというようなことにやっと取り組み出したというところで、どちらかと言つたらそういう課題を持っているのは中学校が多くて、小学校の先生は余りそういうことを関わってこられなかつたんですけど、もうそれではだめですよと、まさに小学校に入る前の幼稚園の子どもがどういう状況にあって、中学校に入る前の小学生がどういう環境にあったのかということを共有して、全体として総がかりでやっていくということがこれから求められていきます。そういうものはこの評価の中で言つたら、どこに入れたらえんやということになると出てきませんよね。いじめの問題もそうで、どこかで探していいたらあるんでしょうけど、その問題について、新たに項目を起こしてやっていくのかと。基本計画つくった時点とは、10年間ですから、いくつか変わっていく中で、どういうふうにこれをバージョンアップというのか、内容を変えていくのかとところがあるなというふうに思いますね。

今朝も川那邊さんと話してたところで、図書をたくさん読ませるということがテーマとしてあるんですけども、そこでいろいろボランティアの方に入つていただいたり、リブネットという外部の業者、ある意味アウトソーシングでもあると思うんですけど、そういうことを入れたりした中で、読書について成果が出てきているんです。けれど、そのことはここの中でどこに載っているのやいうたら、計画を作ったその時点では、そのことを余り想定してなかつたんですね。というようなことで、少しずつ変わってきている内容についても、立てた項目をもう一回見直して、今日的なテーマにどう合わせていくのかということもしっかりと議論していかないと、前のやつをそのまましていくということで、それを消し込んでいったら、何か目標が達成できたというような、そんなことにはちょっとならないと思いますので、その辺も内容を含めて議論をしていく必要があるかなというふうに、自分らの中では思つてまして、そういう情報といいますか、内容も提供しながら評価をいただくこともこれから大事なことやなというふうに思いました。

委員長

現場の中でね、発達障害のお子さんなんか、やっぱり幼稚園のときから、ちょっとこの子はちょっと変わったところがあるなというようなお子さんが小学校になって、その障害が少し表に出てくる、それが今度中学校になって、大きな学力問題とかね、いろんな対人関係上の問題がもっと大きくなる、高等学校に行くともっと大きくなるというような、こういうようなことがありますよね。ですから、そういうことを考えると、その情報を、本当はそれぞれの学校できちんと管理されているほうが本当は望ましくて、外に出すというのは余りよろしくないのかもしれないんですけども、でも発達障害みたいなことを考えると、逆に学校の中でその情報を閉じてしまうことのほうが、むしろそのお子さんの高校、大学と進まれていくときの学習の支えとか、対人関係上の支えには、逆に障害になってくるので、ちょっと難しいことではあるんですけども、やはりそういうところも情報の交換は考えていかれたほうがいいかなというふうに思うんですよね。

山下委員

私、以前幼稚園のほうで会長をさせていただいて、発達障害をお持ちのお子さんのこととかもよく知っているんですけど、近所にもたくさんおられるんです。実はとても人数増えてまして、小学校で面談を何回もされておられます。幼稚園の頃から、うろうろして、まず座れないという、動き回ってしまうというお子さんと、あとちょっと言葉が遅いというお子さんについては、小学校に入る大分前から、年長さんぐらいになったら小学校の先生のほうと相談されていますね。年中さん、その下の歳、いわゆる4歳児さんについては、幼稚園のほうで、何度も保護者の方と面談をされてお話とかそういう取り組みはずつとされています。今幼稚園のほうは、幼児課さんということでまた別になってしまっているんですけど、それでもまだ連携ということはされておられるので、幼稚園に行っているときもそうだったんですけど、草津は本当にきちんとその辺もしておられるなと思うのと。

あと、幼稚園のほうも、発達障害をお持ちのお子さんとかは、1人教員というか、幼稚園の先生の方サポートみたいな形についておられるので、本当に幼稚園からきちんとやっていただいていると思っていたので、幼稚園のほうはあえて何も言わなかつたんですけど、中学校はどうなのかなと。中学校については、子どももまだ中学校に行ってませんからわからないので、どうなのかなというふうに思ったので、ちょっと中学校のお話だけお聞きしたんですけど。幼稚園さんと小学校さんはそんな形で連携を取っていただいているんですけど。

先ほどちょっとといじめのお話が出たんですけど、2学期に入ってから「いじめを無くそう、校長宣言」というのを草津市内でやられてますよね。もう早速、そういうことをどんどん、どんどん取組としてされて、本当にさすがだなどい

うしかないぐらい、もう本当に教育委員会の方十分やっておられるなと思いながら、またそういう宣言されたので、次またいじめについても、来年度こういう評価に載せてやっていかれるのかなというふうに思っています。本当に、先々、先々、何か大きな問題が滋賀県内で起これば、動いておられます。草津は本当に早くに動いておられるという、感心しっ放しなぐらいなんです。そういう宣言をされて、きちんと学年ごとに、各クラスの先生方も合わせて、いじめを無くそうという宣言を教室でちゃんと説明して、なぜそういうしたらいけないのか、思いやりを持って、人と接しましょう、困ったことがあつたら必ず相談しましょうというのをされておられるんです。矢倉のほうは、保護者さんあてにもリーフレットを配布していただいて、保護者さんでも気づかれたことがあつたらというふうに、ものすごく手厚くしていただいているので、本当に一保護者としては、とても安心して子どもを学校に通わすことができるなというふうに思っています。何かべたぼめみたいな感じであれなんんですけど、本当にべたぼめするつもりはないんですけど、いつも先に先に動いておられるのが目に見えてますので。

教育長

ありがとうございます。大津のことが新聞に載ったときに、その日に校長会をしまして、それで草津でどうするんだということで何回か議論したりですね、管理職の研修会のシンポジウムでもその問題を取り上げまして、それで今言われましたように、2学期の始業式のその日に全ての校長先生が子どもたちに、いじめをなくすと、どこの学校でもいじめというのは起こる可能性あるわけですけど、そのことについて、校長の言葉でお話をすると。合わせて、小学校、中学校保護者別にリーフレットをつくりまして、それを全部配布すると。少なくとも子どもたち学級でもそういういじめの問題が話ができる、親子でもいじめの問題の話ができる、そういう環境を学校と教育委員会でつくってやってきました。

それから合わせて、これまでからいろいろいじめも含めていろんな問題行動を含めて起こった場合には、学校の先生だけではなかなか無理ですので、弁護士の先生やカウンセラーの先生なんかも入れてケース会議という形で、実際にはいろいろ議論をしながら、個々の子どもに合った形で、学校で具体的な指導といいますか、実際の対応をしています。これもいろいろ形が変わってきますので、それだけでいいのかどうかということで、県も国もいろんな形でされていくというところで、草津として次はどういうふうにしていくのかということも引き続きですね、校長会、教育委員会等で議論をしているところであります。そう言ってても、いつどこで何が起こるかわからないというのも現実ですので、起きた場合には、きっちりと丁寧に対応していく、これが一番大事なことではな

いかなど。子どもたちを守るというね、いじめられている子どもたちを守り通すという視点で、具体的に施策を打っていきたいというふうに思ってますけども。ありがとうございます。

山下委員

何もしないんじゃなくって、先々にきちんとされているというのが、もう本当に目に見えてわかるというのはすばらしいことだなというふうに、いつも思っているので、本当にありがとうございます。

委員長

それから、一度、基本計画をつくってしまうと、そこの枠組みからなかなか拘束されてしまって出られないことがありますよね。ところが、先ほど三木教育長もおっしゃったように、事態はどんどんと変わっていって、10年の間に変わっていくものをね、前の10年につくったものをそのままの枠組みで持っていくということはできませんので、どこかで見直し、それで項目の追加とかそういうようなものをやっていったほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

私どもも大学のほうで、中期目標計画って、これは5年間なんですけれども、最初の計画をつくり上げたときに、考えていたことと事態が変わってきますと、最初は当初の計画こう書いてあったからといったって、もう現状に合わないんです。そうすると、年度計画のところで変えていくということは、つまり基本計画そのものは、大きくの計画にしておかないといけない。それから、その年度計画はそれぞれ年度で見直して、大きくの内で、その方針に従ってつくれていくというようなそういうやり方をしないと、余りに最初頑張ってしまうと、私どもも第1期のときには失敗したんですけども、余りにもかちっとつくり上げてしまうと、かえって融通がきかないということがありますので、お考えいただけたらなと思います。だから、先ほどのいじめの問題とか、いろいろ新しく起こってくることは、その都度、年度計画やこういった評価書の中に反映させていってたら良いのではないかと思う。

それから、すみません、もう一つ。非常に潤沢な教育予算で、非常にうらやましいなと思うんですけども、私ども常々感じることは、教育予算を削ろうと思ったら削れるということです。だけど削ったときに、削られた教育予算の中で育っていく子どもたちの不利益を考えると、教育というのは非常に長い期間をかけて形成されていくものですから、だからこの年度にどーんと教育予算をつけた、次の年度はどーんと減ってきた、財政が厳しいからどんどん、どんどんじやあ削りましょうとか、そういうようなことをやっていきますと、教育そのものが疲弊してくる。そして、質の高い教育を提供することが難しくなってくると思うんです。だから、お金がたくさんあればいいということではない

んですけれども、やはり子どもの教育というのは、市でしたら小・中学校がメインになるかもしれませんけれども、やはり長い間にどうやってこの子どもたちを成長させていくかというこの視点を持って、ぜひとも教育予算、潤沢などは言いませんけど、必要な教育予算を確保していただけたらなというふうに思います。

小西教育委員長

今の話に関連して申し上げますと、平成23年度の点検評価での高い評点というのは、やっぱり一つは予算権を持っておられる市長さんの教育に対する理解、そういうものがやっぱり大きいと思います。議会のほうもこれを理解して認められると。これでやっぱり大きく展開が変わると思うんですね。お金がある、つけてもらったという、これが一番大きかったなと思うんです。それを事務局の人たちとか、教育現場の人たちがうまく使って、生かしてやってきたから、こう高い評価が生まれたなど、僕はそういうふうに評価をしているんですよ。僕、教育委員3年弱になりますけど、教育委員がいたから何かプラスになったかと思ったら、そうじやなしに、やっぱり予算をつけていただく、そういう理解のある行政の長がおられるということが、やっぱり日本の教育の中でも非常に大事なことだと思います。教育委員会は行政から独立しているというけど予算権がない。意見は求められますけれど、意見は意見なので、決定権もないというところが非常にまどろっこしい立場なんですけども、幸い草津の場合は、行政と教育行政、別々にあるとは言いながら非常にうまく回ってますんで、私たちも、意見をつけるときは、意見なしというぐらいにまともなものが上がってきてます。これが時代が変わって、変なものに意見を求めるという議案が上がってきたときに、果たして教育委員会、5人で合議制の教育委員会が、それをノーと言えるのか、そう思うとちょっと無力感を感じるところがあるんですけども、今のところは、非常にうまく回っている、ぜひそれで、早くやつてくださいと言えば、非常に盛り上がってますんでね。大阪の例を見てもわかりますけど、教育委員会、教育委員と行政の長が対立すると、やっぱり不幸になるのは子どもだと思いますね。考え方いろいろあると思いますけど、対立してはいけないと、意見は出し合って理解しあう必要はあるけど、対立してはいけない。こんなことを言うたら大津に怒られるかもしれませんけど、大津も何か大きな問題で、市長さんと教育長の考え方方が違うんで、もうちょっと話し合ってと思いますね。だからやっぱり教育委員会とか、非常に独立して崇高な立場で、憲法みたいな性質を持ってここに高いところにいるんですけど、決定権がないというところが、まだちょっとまどろっこしい。ただ話し合いはしっかりと、意見の交換はしっかりとできるという、そういう関係をずっと保つていけば、うまく回っていくなというふうに感じますね。

- 委員長 教育委員会と行政とが、一応独立しているということは、それなりの過去の歴史と、それから意義があることですのでね、やはりそこはお互いに、その立場と言いますかね、その歴史を含めて考えていくいただきたいなというふうに思いますね。
- 山下委員 ちょっとすみません。余りにもいいことばっかり言ったので、ちょっと。
大学なんかは、多分、事務局というのは、事務のエキスパートの方がやっておられるのかなと思うんですけど、小学校とか中学校って、多分教員の方が事務をやられているんじゃないかなというふうに思うんです。その辺、学校の先生としてずっと現場に立っておられたのが、突然事務職というのの難しさというのはないですかね。生徒たちを教えて、こうだああだと言しながら先生という立場でやっておられたのが、突然の事務職というのはやりにくかったりするのか、ちょっとふと思ったので。
- 久保委員 学校の。
- 山下委員 学校ですね。
- 久保委員 学校で今まで教員としてやったけど、学校の中の話ですか。
- 山下委員 学校の中でですね。
- 久保委員 ああ、教育委員会の話ではなくて。
- 山下委員 問題とかないですかね。教務の方というのは、今まで子ども相手にしていたのが突然大人の相手をしないといけないという難しさがあったりするんじゃないかなと思ったりもするんですけど。今まで子どもを相手していたのが、次年度からは、子どもの相手ももちろんあるんですけど、保護者相手だったり、地域相手だったりになる難しさというのがあるのかなというふうに思うんですけど。どうなんですかね。
- 久保委員 それはあれですよ、大なり少なりなり、学校に勤めてすぐの若い先生でも、当然保護者さんの相手もするわけですし、あるいはいろんな関係の行事やとかいうようなことで言えば、地域の動きにもかかわらんならんことあるんで、ですから、それはまあある年になつたら、突然そういうことを降って湧いたよう

にせんならんようになるということにはならへんと思いますけどね。

でもまあ、管理職の先生は別ですけどね。でも、それは主任クラスの先生で、比率的に子どもの直接教育に携わる分よりも、それ以外の事務的な処理することを比率が増えていくということはありますけどね。どこまでいっても、でも子どもに教育に関係しなくなるということは、実際、学校現場ではないですね。その辺。

ただ、でも、そういう学校で教師が抱えている仕事のうちの、例えば保護者からの集金事務とか、学校に居る事務職員がうまく機能的に肩がわりしていける分は、共同で連携してやるような方法をつくっていくとかといったことが以前に比べたら取り組まれるようになってきているとは思いますけど。先生の子どもの教育に携わる以外の部分の負担をできるだけ解消して、子どもと向き合える時間を少しでもたくさんつくることが、いろんな学校で工夫されています。

教育長

先生方は教えるという、子どもたちをどうするのかということについてはプロですよね。そういう志で先生になられた、それが管理職になりますと、教育ということよりもマネジメント力というか、学校経営をどうするのかというところが大きく求められますよね。教員としての実績を持った中でこそそれができるわけですけども。ただ、今の状況から見ますと、その辺のマネジメント力というのが求められるときに教員だけでやってできるのかどうか。急に変わるわけですよ、ある意味。現場の先生方の意識をどう高揚させるのかということも、管理職には求められる仕事になりますよね。子どもを扱っているのと同じような形でやるわけにはいかない。外との関係があるので、そういう力というのは、今までより以上に求められるということが、時代背景としてはありますね。

山下委員

特に、地域もだんだんまちづくりが立ち上がって、保護者さんもどっちかというたら、いろいろ言う保護者さんもたくさんおります。すみません、私も言うほうなんんですけど。ですからだんだん難しい、そういうひずみとかがあるんじゃないかなというふうにちょっと思ったりもするので。

委員長

ほかに何か御意見とかありますでしょうか。

そうしましたら、そろそろまとめの時間になってまいりましたので、懇談会のまとめに入らせて、外部評価委員の私どもは、これから草津市の教育委員会にどういうことを期待するか。それから、教育委員の皆様方には、これからの草津市の教育委員会をどう展望されるのかという、こういう視点から御意見を頂戴したいと思います。

それでは、私のほうから、これから草津市教育委員会にどういうことを期待するかということを述べさせていただきます。

草津市、現在人口が増加しております。豊富な教育予算を確保されて、しかもその予算が子どもたちを育てていくのに有効に使われているというふうに考えております。今後も草津市の子どもたちの学びですね、それから、心身の健康こういうようなものを向上させていただきますように御努力を願いたいと、こういうことが私が期待していることでございます。

以上です。

次に、久保委員からお願ひいたします。

久保委員

今回、こういう教育委員会の事務についての外部評価ということで寄せてもらったのですけれども、教育委員会としての施策をいろいろ工夫されてうたれたとしても、教育の正否はやっぱり現場で子どもに直接指導をする教員だと思いますし、その指導力とか、あるいは学校での個々の教員がトータルとして、学校の教育力としてどれだけの効果を上げるかということだと思います。そういう意味では、本当に先生が頑張ってやれるような体制づくりのための人の配置がすごくされているということは、すばらしいことだと思いますし、そのことを担当の先生の仕事だというだけじゃなくて、学校という組織の中で広がっていくような、そういう当然それぞれの学校が工夫されていると思うんですけど、そのことをリードしたり、あるいはやっぱり支援したりというのが教育委員会やろうと思いますのでね、そういう面で頑張ってやっていただけるとありがたいなということを思います。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。

最後に、山下委員お願いします。

山下委員

本当にすごく先々をとってやっていたいいるなというのを、常々実感させていただいている。期待することとか、お願いすることというのも、もう本当にこの調子でよろしくお願いしますと思っているので、もう本当にぶれずにずうっとこのまま突っ走っていただいても全然いいかなというふうに思っておりますので、皆さん自信を持って取り組んでいただけたら一番いいかなというふうに思います。

委員長

はい、ありがとうございます。

これで私たちの意見が終わりましたので、引き続きまして、小西委員長のほ

うから、これから草津市教育委員会の展望という点でお話を伺いたいと思います。御意見をお願いします。

小西教育委員長

日常の教育行政につきましては、評価をしていただいたように、幾つかの課題は抱えておりますけれども、教育振興基本計画にそって、前に向かって進んでいると思っております。御意見いただいたように、その内容を年ごとに見直しながら、さらに前に進めるようにやってまいりたいと思います。

そう言いながらも、一般論として、教育委員会、教育委員のあり方については、これでいいのかという意見がずっと長い間続いてきております。特に昨今は社会問題になったあの大津のような大きな事案を抱えましたときに、教育委員よ、事務局に任せずに前に出てこいと、あるいは教育委員の責任はどうなっているのかという批判がクローズアップされます。現在の制度運用では、どこの教育委員会におきましても、教育委員会というのは協議の5人の教育委員会です。教育委員会において、そのようにならざるを得ないという側面を持つております。しかし、だからといってこういう問題が出てきたときに、我々委員は、そういうことに身をすくめてやり過ごそうとするのではなくて、この批判に答えられるような術を探るべきであるというふうに思っております。そのありようを見直すことが必要であろうと思います。そのためには、やっぱり教育委員と、それから、実務を司っておられる専門家集団である事務局が一体になって取り組んで、何ができるのか、それから、できることから始めていこうという姿勢で臨んでまいりたいと思っております。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。

続きまして、馬場委員お願いします。

馬場教育委員

事務局の努力のおかげでたくさん的人がつき、現場では随分、全てとはいかないんですが、本当に現場の先生方の励みになっているし、助けにもなっていると思うんですが、それにやっぱり甘んじてはいけないと思うんです。教職員は必ず市外に出ますので、交流があってよその市に行ったときに草津であるような助けがないということで、そこで戸惑つても困るので、せっかくここに草津で働いている以上は、ここで力を尽くす、それがやっぱり教育委員会の指導の力やと思うので、そのところをこれから力を入れていかんとあかんなというふうに思います。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。

そしたら最後、村山さんお願ひします。

村山教育委員

私は特に、先生方がおっしゃったこともありますけども、特に保護者代表としての立場から申し上げますと、やっぱりまだまだ現場というか、特に保護者の側、子どもの側と教育委員会というのが、とても遠い存在であると思います。例えば、今ここでいろいろ評価していただいたこと、いろんなことが伝わっている部分もちろんたくさんあるんですけども、まだまだ伝えきってない部分もとてもたくさんあると思いますし。また一つの何か新しいことをしようというときに、どういうふうにそれがこれから進んでいくのかというのが、なかなか保護者のほうに伝わらなくってどうなっていくのかわからないというふうに、過去にもそういうこともありましたので、もっともっとその部分を縮められるように、目に見える形で伝えられるようにしていきたいなというふうに思っています。

委員長

はい、ありがとうございました。

最後に、とりで三木教育長からお願ひいたします。

教育長

もう、本当に今日は勉強になりましたし、基本理念である「子どもが輝く教育のまち、出会いと学びのまちくさつ」と、これをやっぱりおろそかにしたらあかんし、これは最後まで変わらないというふうに思っております。「開かれた行動する教育委員会」というモットーをもって、教育委員と事務局、市長部局と教育委員会、教育の現場と教育委員会、しっかりと手をとりあってですね、その理念に向けて頑張っていかなければならないなというふうに思いました。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございました。

いろいろ皆さんから御意見をいただきて、話は尽きないと思うんですけども、ちょうど予定の時刻も参りましたので、これで教育委員の皆様と、私ども外部評価委員の懇談を終わらせていただきたいと思います。

活発な御意見をいただきまして、有意義な懇談の場となりました。これは、皆様に御礼を申し上げます。小西委員長、教育委員の皆様、外部評価委員の皆様、どうもありがとうございました。

それでは、本日の議事を終了いたしましたので、事務局に進行をお返しいたします。よろしくお願いします。

事務局

委員長ならびに委員の皆様には、長時間にわたり御懇談いただきましてありがとうございました。

また、児玉委員長様には、委員会の議事進行につきまして、大変お世話になりましたことにありがとうございました。

今後、本日の懇談の会議録をまとめさせていただいた後、草津市教育委員会事務の点検及び評価の報告書平成23年度を9月の定例教育委員会にお諮りし、議決をいただきまして、市議会に報告するとともに、市のホームページ等で公表してまいりたいと考えております。

それでは、これで教育委員会事務外部評価委員会は全て終了いたしました。委員の皆様、まことにありがとうございました。

閉会 午後4時00分